

大会規則および競技者注意事項

1. 本大会は2019年度日本陸上競技連盟競技規則、ならびに本大会要項によって行う。
2. プログラムの訂正は、9時30分まで、または競技開始時刻の2時間前までに大会本部に申し出ること。
3. 招集方法

- ① 招集場所は100mスタート後方のゲート付近に設ける。
- ② 招集時刻は競技開始時刻を基準として次の通りである。

種 目	招 集 時 刻
ト ラ ッ ク 競 技	競技開始30分前に開始し、20分前に完了する
フ ィ ー ル ド 競 技	競技開始40分前に開始し、30分前に完了する

- ③ リレーのオーダー用紙は第1組の招集完了時刻の1時間前までに競技者係（招集所）に提出する。
（オーダー用紙はプログラム巻末にある）
- ④ 上記の招集時間後は、棄権したものとみなす。

4. 競技方法

- ① トラック種目のレーン順、フィールド種目の試技順はプログラムに示した上から下（2列の場合は左の列より）で行う。空いたレーンがあっても原則的につめないで行う。
- ② リレー競技とフィールド競技に同時に出場する選手は、リレー競技を優先するので、必ずフィールド競技の審判員に連絡して、リレー競技終了後ただちに帰ること。（ラウンド内に戻らないとパス扱いとなる）
- ③ スタートは英語で行う。不正スタートを行った競技者は失格とする。
- ④ 走幅跳、砲丸投は3回の試技の後に、トップ8による3回の試技を行う。
- ⑤ セパレートレーンを使用する競技では、競技者の安全のためフィニッシュライン通過後も自分のレーンを走ること。
- ⑥ 1000mおよび2000mのスタートはオープンレーンで行う。
- ⑦ リレーのスタート用マークは各チームで用意し、レース終了後必ず自チームではがす。
- ⑧ リレーのメンバー変更について
- ⑨ どのラウンドにおいてもメンバーのうち少なくとも2人は、そのリレーに登録した競技者でなければならないが、その条件を満たせば、同一団体で、他の種目にエントリーしている競技者を出場させることも可能（競技規則第170条10）。複数のリレーチームをエントリーしている団体の場合、他のリレーチームに登録している競技者を出場させることは可能。ただし、1人が2つのチームで出場する事はできない。（例. Aチームに登録している競技者は、Aチームで出場しなければBチームで出場できる）
- ⑩ 競技（練習）で使用する用器具は競技場備え付けのものに限る。
- ⑪ ハードルは次の規格で行う。

種 目	ハードルの高さ	ハードル間の距離
一般・高校男子 110mH	1.067m	9.14m
中学共通男子 110mH	0.914m	9.14m
一般・高校女子 100mH	0.838m	8.50m
中学女子 100mH	0.762m	8.00m

- ⑫ 走高跳・棒高跳の最初のバーの高さは、出場する競技者との協議によりフィールド審判長が決定する。

- ⑬ 投てき用器具の重量は次の通りとする。

種 目	重 量
一般男子 砲丸投	7. 260kg
高校男子 砲丸投	6. 000kg
中学男子 砲丸投	5. 000kg
一般・高校女子 砲丸投	4. 000kg
中学女子 砲丸投	2. 720kg

5. ナンバーカード

- ① ナンバーカードを作成する場合は、割り当てられた番号をはっきり大きく書く。胸・背部に確実につけること。(跳躍競技の競技者は胸または背のどちらかでよい) 配布されたナンバーカードは配布されたままの大きさと使用すること。
- ②トラック競技に参加する競技者は、腰ナンバーを競技者係で受け取り、右腰やや後方に付ける。リレー競技の場合は第4走者のみ付ける。フィニッシュ後ただちに所定の位置に返却すること。
- ③ 本部から配布されたナンバーカードは競技終了後、番号順にそろえて本部へ返却すること。

6. 記録証 記録証は団体ごとに封筒にまとめて参加全員に配布する。競技終了後に代表者が表彰係まで取りにくること。

7. 表 彰 各種目の総合結果第1位(高校生以上/中学生それぞれの1位)の選手に記念品を授与する。(リレーは4名分)記録確定後に大会本部まで取りにくること。

8. 競技場使用上の注意

- ① フィールド内の芝は使用禁止となっているので入らないこと。
- ② スタンドおよび建物内はスパイクを履いての通行を禁止する。
- ③ 貴重品や衣類の管理は各自で行い盗難防止につとめること。
- ④ ごみ類は必ず持ち帰ること。競技場内の整備につとめ、帰るときは必ず清掃をすること。
- ⑤ 本部前は通行禁止とする。また、セーフティーコーン設置場所には絶対に入らないこと。

9. その他

- (ア) 申込み後の種目の変更は認めない。
- (イ) 場内における練習は、すべて競技役員の指示に従うこと。
- (ウ) 選手の負傷については応急処置のみを主催者で行うが、それ以後の責任は負わない。
- (エ) ゴミの持ち帰りにご協力ください。
- (オ) 競技場の舗装の厚さは9mmである。
- (カ) ほかに不明の点は、大会本部(総務)まで問い合わせること。